

# CASBEE<sup>®</sup>新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版  
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)

## 1. 建物概要

建物名称	日和山小学校	 完成予想図
建設地	中央区 栄町三丁目5930-2	
用途地域	第2種中高層専用地域、準防火地域	
建物用途	学校,	
竣工年	2016年12月 予定	
敷地面積	9,843.33 m <sup>2</sup>	
建築面積	769.32 m <sup>2</sup>	
延床面積	2,917.21 m <sup>2</sup>	
階数	地上5F	
構造	RC造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2015年8月10日	

## 2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{55.2}{34.6} = 1.5$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

## 3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.0		バリアフリー	3.0
			維持管理	3.0
			更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.4		耐震・免震	3.8
			信頼性	3.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.0		建物の熱負荷抑制	-
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.3		節水	4.0
			リサイクル材の使用	4.0
			再利用可能性向上	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	2.0		生物環境の保全・創出	2.0
			敷地内温熱環境の向上	2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.5		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	4.0

## 4. 新潟市の重点項目の配慮事項

1. 年月を経て地域に溶け込んでいる既存校舎のデザインを踏襲し、まちなみ景観に配慮。2. 敷地内の浸透性の良い地盤を有効利用し、雨水を大地へ還流し自然サイクルに配慮し、水資源の保護にも寄与を図る。3. 主要居室を光熱が安定している北東側へ配置し、児童への温熱影響の安定を図る。4. 季節風による砂塵等の影響が軽減されるよう、風の流れを考慮した配置計画としている。

# CASBEE<sup>®</sup>新潟

# 評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)  
CASBEE-新築(簡易版)2010年追加版(BEI対応)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日和山小学校	階数	地上5F
建設地	新潟県新潟市中央区	構造	RC造
用途地域	第2種中高層専用地域、準防火地域	平均居住人員	431人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	3,900時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年12月 予定	評価の実施日	2015年8月10日
敷地面積	9,843 m <sup>2</sup>	作成者	近藤 勇二
建築面積	769 m <sup>2</sup>	確認日	2015年8月11日
延床面積	2,917 m <sup>2</sup>	確認者	近藤 勇二



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 87%  
③上記+②以外の 87%  
④上記+ 87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.2

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.6

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項	
<b>総合</b> 統合により児童の増加にあわせた、歴史を踏襲する既存デザインを採り入れた施設する増築工事である。	<b>その他</b> 隣接する柳都中学校との教育環境の連続性を意識した計画としている。
<b>Q1 室内環境</b> 廊下拡張型教室であり廊下側間仕切りが無いため、教室・廊下(多目的スペース)の天井に吸音材を採用。空調及び暖房する部屋は複層ガラスを採用し、省エネを図る。	<b>Q2 サービス性能</b> 避難施設となることから、構造の重要性係数を1.25とする。屋上に市民の避難が可能なように、屋外階段を整備。
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 渡り廊下の1階を風の通り道として確保。可能なところには植栽を配置し、既存施設とのデザイン・色彩等を継承。	<b>LR1 エネルギー</b> 設備やシステムとしては特別なものは導入していないが、生徒の主たる授業スペースである普通教室には、深いテラスを配置し夏季の影響の軽減を図っている。
<b>LR2 資源・マテリアル</b> 衛生器具類については、節水型機器を採用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 近隣住宅街への風の影響を軽減する建物配置としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される